

四組 五場面

作者は、父親のえびフライをおいしく味わってほしい気持ちと共に、本当はすぐに帰る父親の寂しげな心を表している。祖母も姉も主人公も、おいしく食べていて父親に感謝していることだろう。祖母がえびをのどに詰まらせた場面は、家族の団らんを表しているほか、父親の土産をとっても味わっていることを強調したくて設定したものである。

古沢君

みんなが初めて食べるえびフライ。あまりのおいしさに驚いた。作者はそのおいしさを伝えるため、祖母がえびフライを食べたときにしつぽがのどにつかえたという場面を設定した。

藤田さん

作者は、祖母が歯がないのにあまりのおいしさにしつぽまで食べてしまったのどにつかえたと、それほどおいしいものだったと伝えたかったし、父親との優しい気持ちなどを伝えたかったのどにつかえたことを設定した。

杉山君

主人公は、父親が土産に持って帰ってくれたえびフライを楽しみに待っていた。家族は揚げたてのえびフライを食べて、幸せだった。

その気持ちの強さ、えびフライに夢中になる気持ちを強く読者に伝えるため、作者は祖母がのどにえびのしつぽをつかえさせた場面を設定した。

赤座さん

作者は、父ががんばって苦勞して持ってきたお土産だからといって、最後まで残さず食べようという、家族の中での思いやりを表すために、祖母がえびのしつぽがのどにつかえた場面を設定した。

村瀬安紀さん

作者は、えびフライを自分で揚げる父親の姿を造り、家族思いの父親と思うようにした。祖母もみんなえびフライがおいしすぎて、えびのしつぽまで食べてしまい、のどにつかえてしまった。これは、えびフライがとてもおいしいと表現するためのものだ。

青木爽香さん

作者は、歯がない祖母でも最後までえびフライを食べたいと思ったこと、それほどえびフライがおいしかったことを表したくて、のどにつかえたことを設定した。

奥村さん